

高砂市民病院 公的医療機関等2025プラン

平成30年6月策定
令和2年3月改訂

【高砂市民病院の基本情報】

医療機関名：高砂市民病院

開設主体：高砂市

所在地：高砂市荒井町紙町33番1号

許可病床数：290床

（病床の種別）一般病床290床

（病床機能別）急性期193床 回復期97床

稼働病床数：

（病床の種別）一般病床217床

（病床機能別）急性期120床 回復期97床

診療科目：21診療科

内科、消化器内科、循環器内科、緩和ケア科、小児科、外科、呼吸器外科、
乳腺外科、胸部外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、形成外科、
産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、
精神科（休診中）

職員数：（令和2年2月現在）

- ・ 医師 31人
- ・ 看護職員 153人
- ・ 専門職 73人（栄養士3人・調理師12人含む）
- ・ 事務職員 22人

合計 279人

【1. 現状と課題】

- ① 構想区域の現状 記載不要
- ② 構想区域の課題 記載不要

③ 自施設の現状

高齢化が進む中で慢性的な疾患を多く抱える患者が増加しており、複数の基礎疾患を持った患者の入院を受入れるためには、多様な疾患に対応できることが必要になってくる。

当院では内科、外科、整形外科を中心に、他の診療科も含め地域密着型の病院として広く患者を受入れることを心がけている。特に今後患者数が増加すると予測される糖尿病については、腎合併症、眼合併症、神経合併症、末梢循環合併症等の疾患治療と一体で医療を提供する必要があり、眼科、脳神経外科も当院に必要な診療科と考えている。

二次医療圏域の中でも、特に腎臓疾患のある患者の入院治療については、血液浄化センターを有する当院の果たすべき役割が大きい。

また、上部・下部内視鏡検査を充実させ、早期にがんを発見、治療し、手術から緩和ケアまで行っている。当院の緩和ケア病棟は医療圏域を超えて広く利用されており、緩和ケア医療は今後も当院の重要な役割と位置付けている。

近隣に高度急性期・急性期医療を担う加古川中央市民病院があることから、当院はそのポストアキュート機能を担い、地域の急性期医療とともに回復期機能も積極的に担うべきであると考えている。

地域医療構想、地域包括ケアシステムの理念を理解し、地域包括ケア病棟を2病棟設置し、病院で十分リハビリを行ってから退院していただくため、また、在宅の患者の状態が悪くなった時、当院で入院していただけるよう、回復期医療にも力を入れているところである。

東播磨圏域内で急性期機能、回復期機能、終末期機能の3機能を実践できる病院は当院のみであり、これらの強みを生かし、地域医療の充実に貢献していきたい。

④ 自施設の課題 (高砂市民病院新改革プラン参照)

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

今後の医療は近隣病院が競合しあうのではなく協調し、それぞれの病院が強味とする医療を実践し、二次医療圏域内において連携・ネットワークにより完結するべきであると考ええる。

具体的には地域の急性期機能を担いながら、回復期医療（地域包括ケア病棟）、終末期の緩和ケア医療も同時に展開できる、「面倒見の良い公立病院」として使命を果たしていく。

今後患者数が増加すると予測される糖尿病については、腎合併症、眼合併症、神経合併症、末梢循環合併症等を総合的に治療し、また血液透析医療も提供していく。

また2020年4月から199床にダウンサイジングしたいと考えており、より地域に密着した病院としての役割を担っていきたい。

② 今後持つべき病床機能

2025年に向けて、行政が構築していくべき「地域包括ケアシステム」において「医療」分野で貢献していくべきと考えている。当面は急性期病棟を2病棟、地域包括ケア病棟を2病棟（97床）、緩和ケア病棟を1病棟（18床）運用とし、地域包括ケア病棟では在宅医療で入院が必要となった患者の受入れ、またレスパイト入院についても意欲的に行っていく。

現在は「地域包括ケア病棟」は2病棟（97床）であるが、今後の患者動向を見据えながら、将来的には、国の方向性である回復期医療のさらなる充実（地域包括ケア病床の増床）も視野に入れている。

③ その他見直すべき点

深刻な医師不足が解消されていない状況の中、市民ニーズが非常に高い救急搬送患者の受入れ件数が芳しくなかったが、すべての診療科の医師が在院している日中の時間帯は救急搬送患者を断らない方針を打ち出し、受入れ件数はかなり改善できている状況である。

また開業医訪問を地道に行い、紹介患者の受入れ件数を増やすための取り組みを行っている。

そして、今後の最重点課題である回復期機能を充実させていくため、高度急性期病院のポストアキュートの患者のスムーズな受入れ体制を整えているところである。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	0	→	0
急性期	161		102
回復期	47		97
慢性期	0		0
(合計)	208		199

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度			
2018年度	診療報酬改定の影響を分析 ↓ 病棟再編の必要の是非の検討	自施設の今後の病床のあり方の方向性を決定	
2019～2020年度	<u>回復期病棟の増設及びダウンサイジング(200床未満)の検討</u>	<u>より地域に密着した医療を展開していくため、地域包括ケア病棟の充実(既に2病棟に増設済)及び199床にダウンサイジングする。</u>	
2021～2025年度	<u>国の方向性である回復期病床のさらなる増床の検討</u>	<u>今後、益々ニーズが高まると想定される回復期病床の増床の検討を行い、2025年度までに結論を得る。</u>	

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率：70%以上
- ・ 紹介率：50%以上
- ・ 逆紹介率 70%以上

経営に関する項目*

- ・ 人件費率：60%未満
- ・ 材料費比率（対医業収益）：20%

* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

(自由記載)